

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年11月14日

Nature Medicine :

新型コロナ感染回数が多いほど、重症化率、死亡率が増える

【松崎雑感】

アメリカの数百万人の退役軍人データベースの解析により、新型コロナに2回あるいは3回以上感染した人々は、死亡率も重症合併症も倍増するようです。教科書的には、ウイルス感染があると、免疫が高まり再感染しにくいのですが、2度も3度も感染するという事は、基本の免疫力が弱いためと考えられます。できるだけ健康なライフスタイルを心がけ、基礎疾患のある場合は、しっかりとコントロールすることが大事でしょう。

新型コロナ感染回数が多いほど、重症化率、死亡率が増える

Bowe B, Xie Y, Al-Aly Z. **Acute and postacute sequelae associated with SARS-CoV-2 reinfection** [published online ahead of print, 2022 Nov 10]. **Nat Med.** 2022;10.1038/s41591-022-02051-3. doi:10.1038/s41591-022-02051-3

新型コロナウイルスに感染すると急性期およびその後の死亡リスクと諸臓器合併症が増加する。

再感染により予後がどうなるかはまだ明らかになっていない。

退役軍人医療データベースの1回感染者44万3588名、2回以上感染者4万947名、未感染者533万4729名について、感染から6か月以内の死亡、入院、諸臓器合併症を比較した。

未感染者と比較して、2回以上感染者は死亡リスク（ハザード比2.17）、入院リスク（同3.32）が有意に増加していた。

呼吸器、循環器、血液疾患、糖尿病、消化器疾患、腎疾患、メンタルヘルス、筋骨格疾患、神経疾患合併症も有意に増加していた。（4枚目スライド参照）

これらのリスク増加とワクチン接種状況には関連が見られなかった。

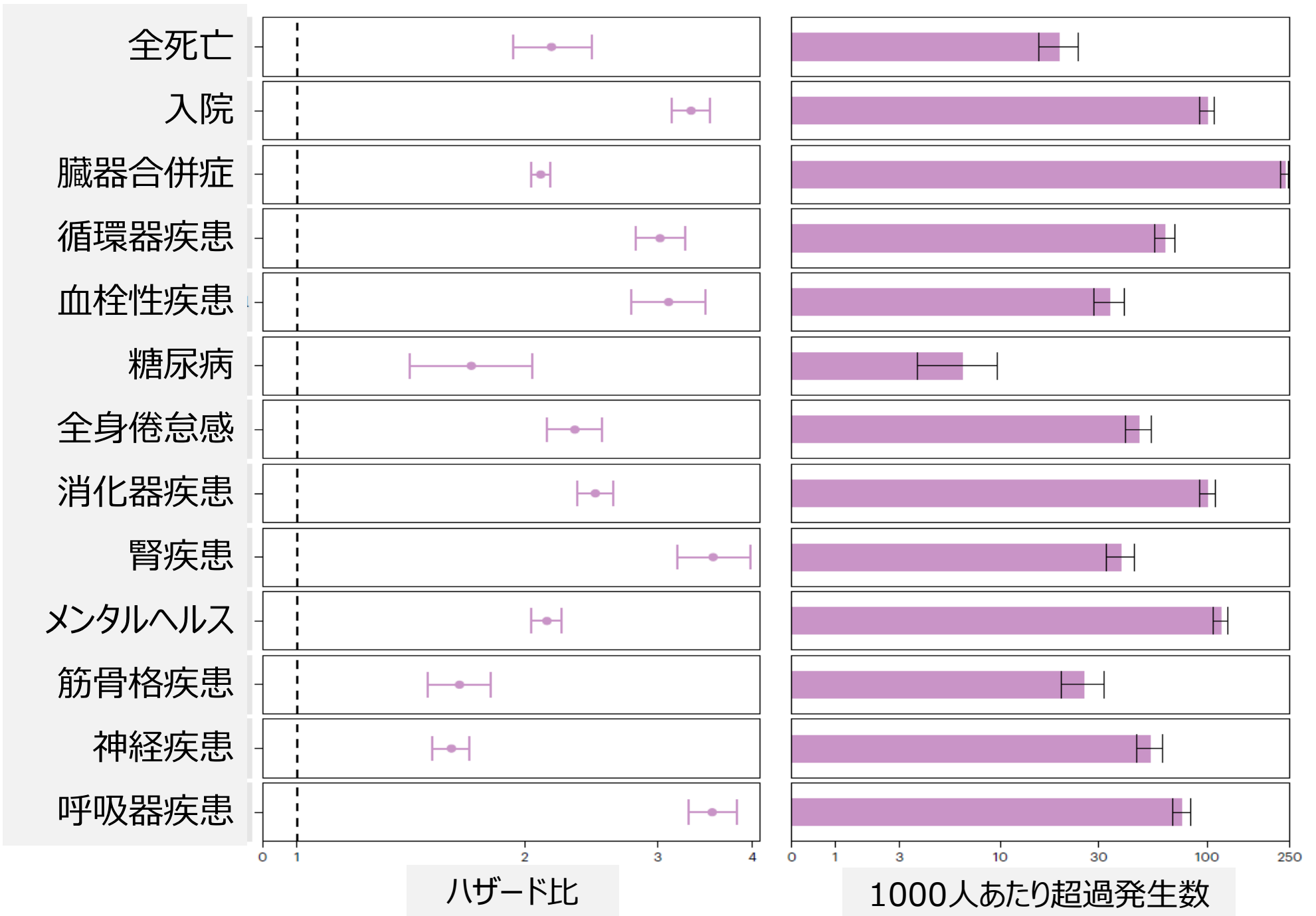
リスク増加率は急性期に最も大きかったが、感染から6か月までリスク増加が続いていた。

感染回数が増えるほどリスクは増加していた。

対象者の多くが白人男性であることがリミテーションである。

この解析結果は、再感染回数が増えるにつれて死亡リスクと諸臓器合併症が急性期から6か月後まで増加することを示している。

再感染防止対策が新型コロナによる死亡と合併症を減らすうえで重要である。



2回以上新型コロナウイルスに感染した人々の死亡リスクと臓器傷害リスク